

新しいうねりを実感・代々木公園に17万人

「初デモ」の方・親子連れも多数

7月16日、坂本龍一さん、瀬戸内寂聴さんらがよびかけ、17万人がつかけた「さようなら原発10万人集会」に家族と参加しました。原発ゼロ目指すとりくみが総結集して「ここまできたか」と

い女性などが手づくりのプラカードで来て」と話す若

ドを手に集まり、新たに立ち上がっている人たちが日に日に広がっています。のを肌で感じています。友人からも「仕事で行かないが賛同するよ」との返事が返ってきました。

福島のお母さん達と懇談



4万5千人が集まった6月22日（上左）、20万に達した29日（中央）、首相官邸前で。写真上右は7月1日に新宿で行われたアピールウォーク。大山とも子都議（右から2人目）や党区議団とともに参加しました。



新宿アルタ前での「原発やめろ！野田やめろ！広場」で一緒に参加したメンバーと（下左・7月1日）。代々木公園でのさようなら原発10万人集会以（下右・16日）

福島県内から都内に自主避難しているお母さん方と懇談させてほしい（裏に続く）。

富田なおき事務所の法律相談日

8月17日(金)、9月21日(金)

原則として毎月第3金曜日に開催、弁護士が相談に応じます。事前にお電話でご予約ください。



TEL 03-3357-3392

午後6時30分から当事務所（都営新宿線曙橋駅から徒歩3分）にて

日本共産党衆議院東京1区（千代田・港・新宿区）

国政対策委員長・若者相談室長

No.33 2012.7.29

発行：富田なおき事務所



富田なおきの つながる通信

〒162-0065 新宿区住吉町11-25

TEL 03-3357-3392

FAX 03-3353-4912

E-mail

tomitanaoki.jimusyo@gmail.com

(表からの続き)

いつまで現在地に暮らせるかわからず、どちらで進学すべきかの迷い、のう胞や鼻血などの健康不安が後をたたないうえ、尿検査だけで一人数万円かかるので、検査も十分に受けられず、地元でも1回目の検査が来年初までかかるそうです。「がんになるかどうかだけの問題ではなく、生身の身体に負わなくてもいい病を背負うのは切ない」と訴えられました。「賠償もらっているんでしょ」と誤解される

が、距離で線引きされるので賠償はゼロです。

親子が会えない

この4月から自主避難者の高速通行料無料化が打ち切られ、毎週のように家族と会いに来ていたお父さんがなかなか来られず、元気に振舞う子どもさんが父親の帰宅後に泣いている様子を伺い、胸がしめつけられる思いです。高速道路会社の「善意」に頼ろうとするだけで、予算をつけなかった現政権は、どうい

うつもりで再稼働を決めたかと思わざるをえません。

医療費も国の責任で

千代田、港、新宿の子どもが保険診療を受けても今は中学3年まで無料になっていますが、それは運動が実ってできた、区の制度です。東京に暮らす自主避難者は住民票を移さない限り(今後を考えれば「福島県民」でなくなるのは難しい)、医療費を窓口でいったん全額支払わねばなりません。

自治体のサポートも必要ですが、本質的には、国の制度として子ども医療費が無料であれば、自治体による差は解消されます。

日本共産党の消費税増税に頼らない「提言」では、就学前まで国として無料化し、次の段階では国民の窓口負担をゼロにすることを展望しています。

今年度予算では、福島県が実施した、18歳までの医療費無料化に必要な90億円の支出を政府は拒否。アメリカからF35戦闘機購入を1機減らせればおつりがくるにもかかわらずです。

消費税増税法案は世論に従い、廃案に



消費税増税ストップ署名を国会に提出し、議員に要請。新党きづな幹事長の渡辺孝一郎衆議院議員(左2人目)室では、「増税先行はとんでもない」と意気投合(6月13日)。

消費税増税関連法案が、6月に突如民主・自民・公明3党が合意した「社会保障改革推進法案」とともに衆院を通過、参院で審議が始まりました。

民主党から大量の反対・離党者が出ましたが、国民多数の強い反対の意思の反映だと思いません。国会要請では与党議員も含め世論を大変気にしていました。廃案に全力をあげます。

富田なおきの へのへのもへ路⑮

ある方のフェイスブックでの投稿に、氷室冴子の小説「海がきこえる」のことが触れられていて、疲れていたはずなのに、夜中に読み返してしまいました。

土佐・高知と東京を舞台にした、いわゆる「青春小説」といった感じの、私が中学時代に初めて読んだ雑誌連載小説です。

友情、恋、教師への反発など、文字にすると陳腐な印象になってしまいましたが、自分にも思い当たる感覚が無数にちりばめられていて、中学当時、卓球部のレギュラー入りめざして走りこみや筋トレに励んだ頃を思い出させてくれます。

高知を22歳のとき初めて旅したときは、感激でした。「よさこい祭」をいつか全日程見るのが、夢のひとつです。



東京土建の住宅デーに参加されていた方と。お話を聞くと、組合員ではなく近所の商店主の方でした。長年の信頼関係がうかがえます